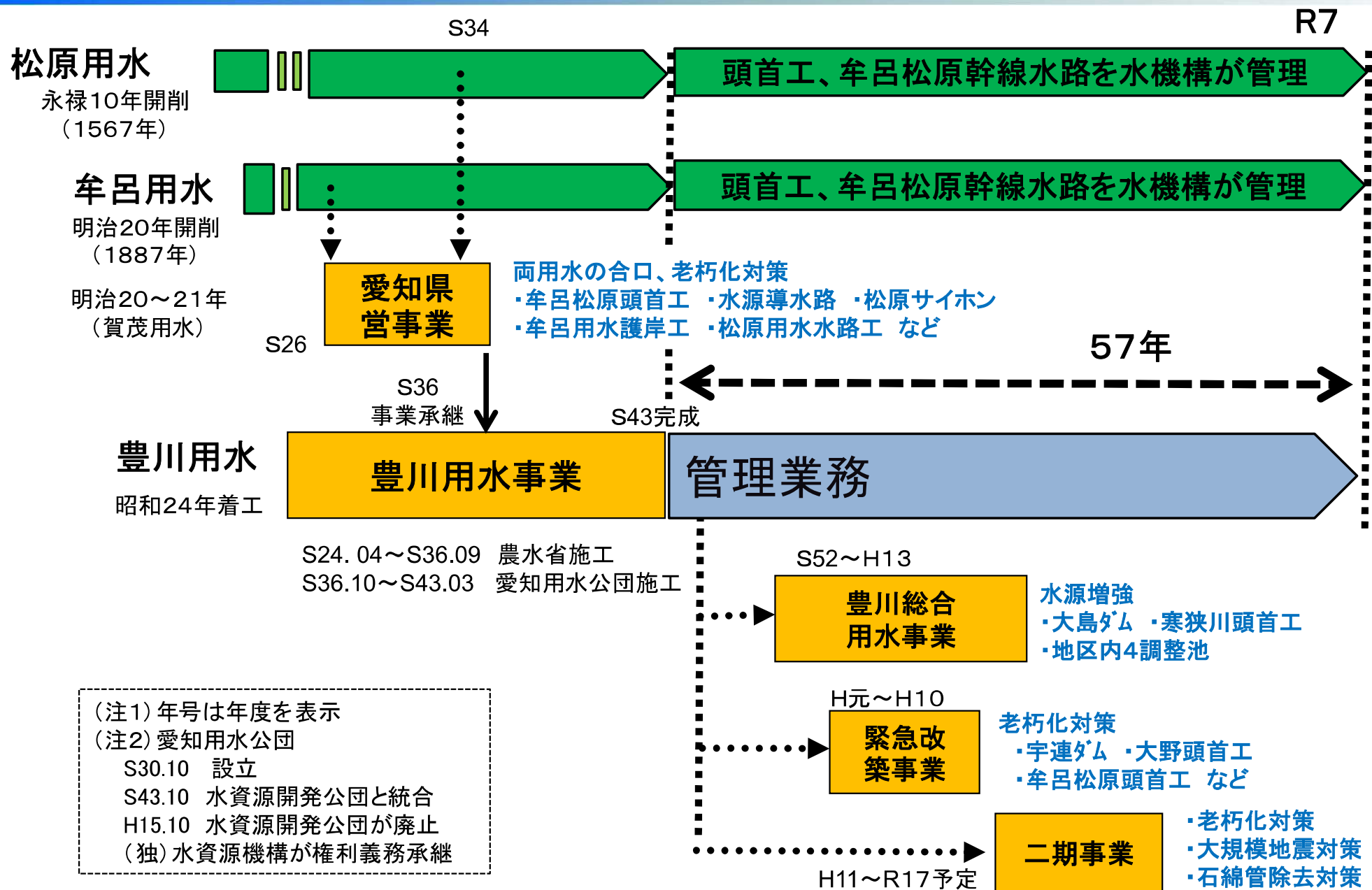


# 豊川用水における 渇水対応について



# 豊川用水の歴史（事業の経緯）



農業の営農形態の近代化、人口増加と生活水準の高度化が進んだことから、水源増強するため、新規水源施設を造成

## 豊川総合用水事業

### 事業工期

- ・ 昭和52年度～平成13年度

### 工事概要

- ・ 大島ダム 1式
- ・ 寒狭川頭首工、導水路 1式
- ・ 地区内調整池 4ヶ所  
(大原、万場、芦ヶ池、蒲郡)

### 有効貯水容量

- ・ 豊川用水: 31,020千m<sup>3</sup>
- ・ 豊総事業: 20,800千m<sup>3</sup>
- ・ 合計: 51,820千m<sup>3</sup>



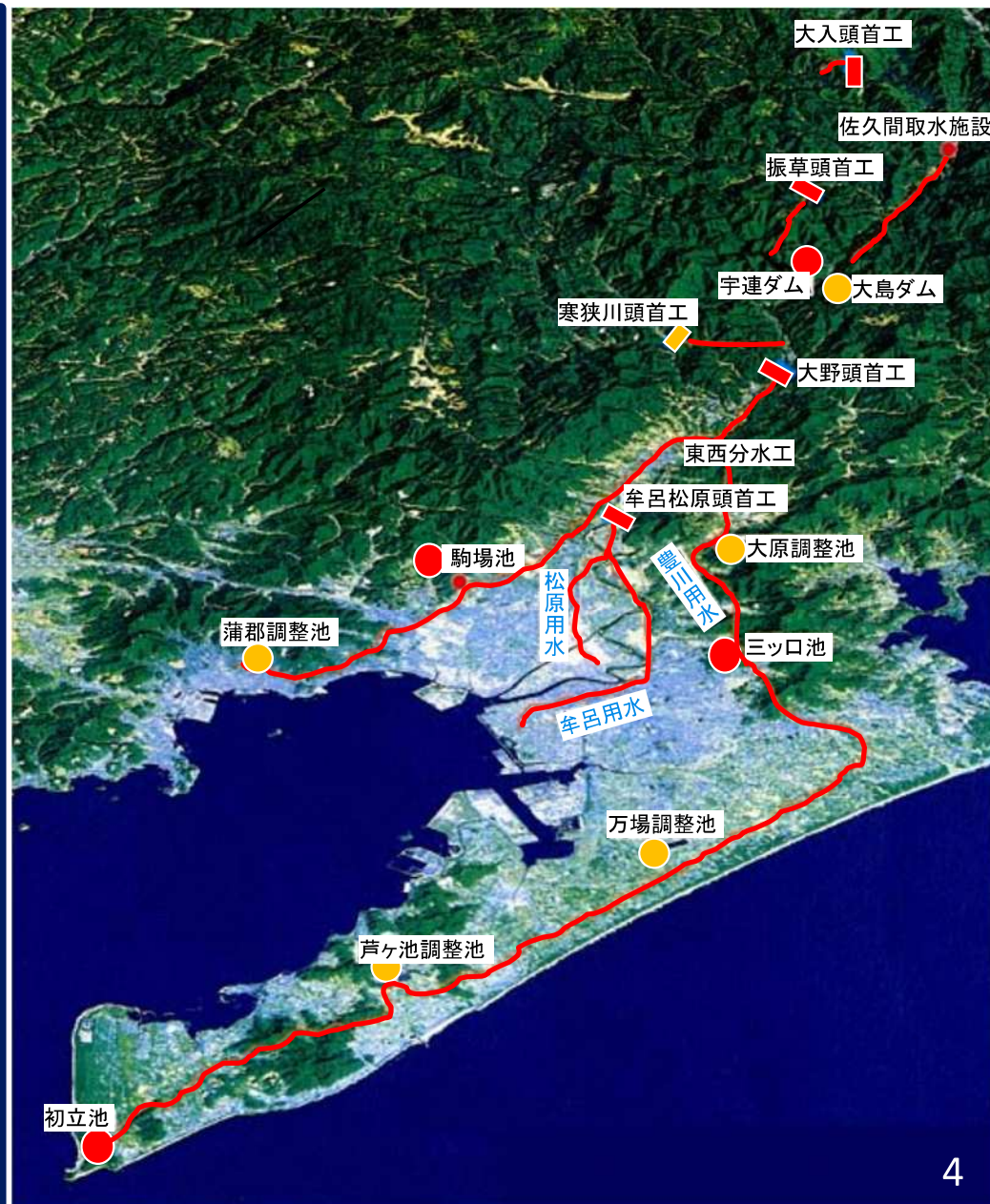
大島ダム



万場調整池

# 豊川用水の主な施設

- ◆ 2つの水源(ダム)施設  
宇連ダム、大島ダム
- ◆ 2つの取水施設(宇連川、豊川)  
大野頭首工、牟呂松原頭首工
- ◆ 4つの流域変更施設  
大入頭首工、振草頭首工  
佐久間取水施設  
寒狭川頭首工
- ◆ 7つの調整池  
三ッ口池、初立池、駒場池  
大原調整池、万場調整池  
芦ヶ池調整池、蒲郡調整池
- ◆ 約160kmの幹線水路・導水路  
大野導水路 (約 6km)  
東部幹線水路 (約76km)  
西部幹線水路 (約36km)  
牟呂松原幹線水路 (約 5km)  
大入導水路、振草導水路  
佐久間導水路、寒狭川導水路



# 水源（ダム）施設

うれ  
宇連ダム



堤高：65m

有効貯水量：28,420千m<sup>3</sup>

# 水源（ダム）施設

宇連ダム 令和8年2月5日



堤高：65m      有効貯水量：28,420千m<sup>3</sup>

大島ダム



堤高:69.4m

有効貯水量:11,300千 $m^3$

# 水源（ダム）施設

大島ダム 令和8年2月5日



堤高:69.4m

有効貯水量:11,300千 $m^3$

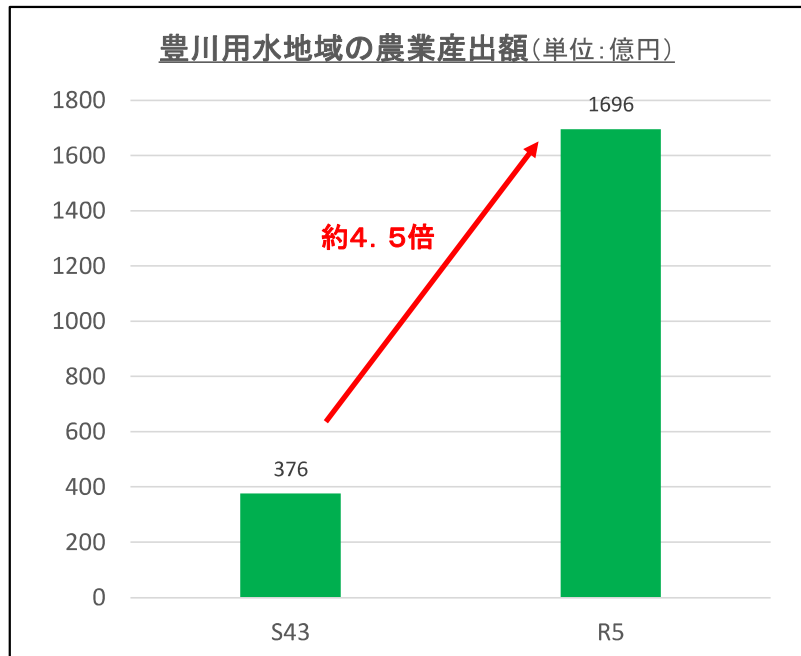
# 豊川用水による通水効果【農業関係】

豊川用水は、温暖な気候と都市近郊と言う地理的条件に恵まれた愛知県東三河地域と静岡県湖西地域の優良な農地への安定した農業用水の確保に貢献している。

- ◆通水面積：約17,164ha(R5)
- ◆取水量：約2億5400万m<sup>3</sup>(R4)
- ◆農業産出額(R5 愛知県)：約3,207億円「全国8位」  
(〃 静岡県)：約2,245億円「全国15位」

・供給地域の1つである**田原市は、市町村別農業産出額5年連続(H26～R1)全国1位。**

[R5 田原市は891億円で全国第2位]



出典:農林水産統計年報(R5)  
市町村別農業産出額(推計)「農林水産省」

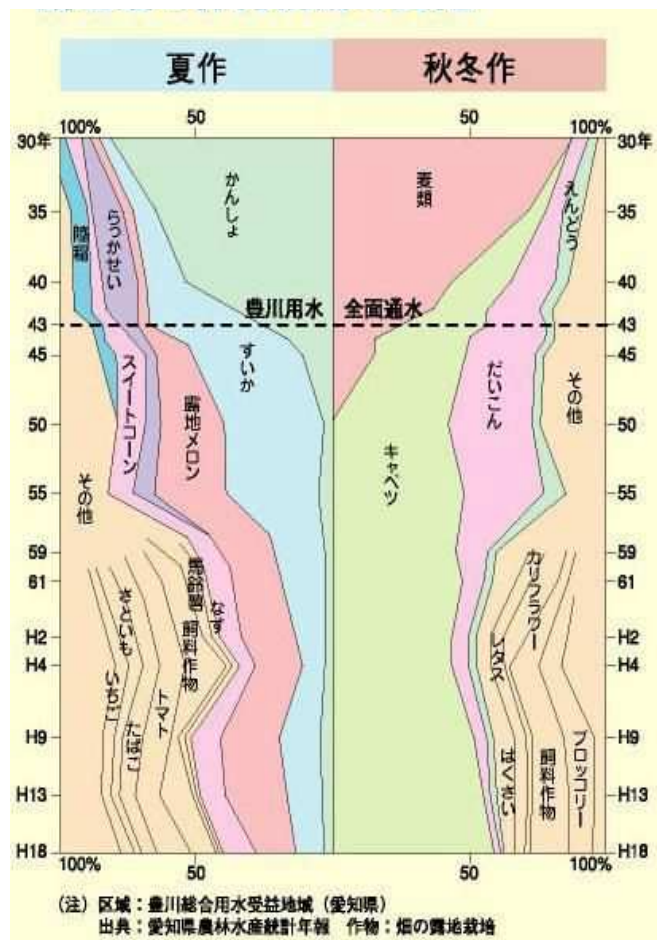
※農業産出額  
農業生産によって得られた農畜産物や加工農産物の販売金額の合計額

都道府県農業産出額比べ(R5)		
順位	都道府県	農業産出額
第19位	秋田県	1,779億円
第20位	岡山県	1,772億円
豊川用水地域		<b>1,696億円</b>
第21位	兵庫県	1,677億円

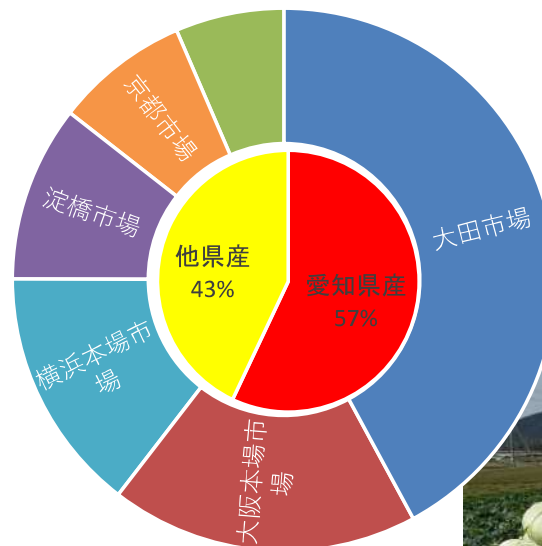
# 豊川用水による通水効果【キャベツ栽培】

本地域では、豊川用水の通水後、温暖な気候と都市近郊の立地条件に恵まれ、ハウス等の施設園芸が大幅に増加した。また、路地畑では、サツマイモや麦類の作物からキャベツ等の野菜の作付けに変化しており、冬作キャベツは関東・関西の約6割が愛知産のキャベツが販売（R8.1実績）されている。

## 路地畑の作付構成の変化



## 冬作キャベツの市況（R8. 1.5～1.15）



日平均販売量  
1,120 t / 日  
うち愛知産  
640 t / 日  
出典：日本農業新聞



# 豊川用水による通水効果【水道】

豊川水系から取水した水を豊川用水の管路で浄水場へ送り、浄水場では、原水を沈殿池、急速ろ過池、活性炭吸着池などの施設をとおして、衛生的でおいしい水道用水をつかって、家庭、学校、会社、工場などに送っている。

給水人口：約73万人（R3）

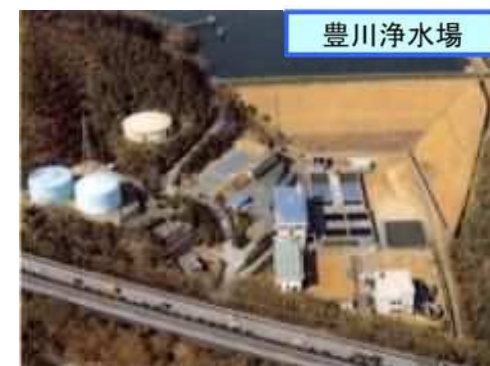
普及率：約99.9%（給水人口／行政区域内人口：R3）

区分	全体計画	豊橋浄水場	豊川浄水場	豊橋南部浄水場
給水区域	5市	新城市、豊川市、豊橋市(3市)	蒲郡市、豊川市、(2市)	豊橋市、田原市(2市)
日最大給水量	267,400m <sup>3</sup> (278,400m <sup>3</sup> )	104,900m <sup>3</sup> (104,900m <sup>3</sup> )	86,000m <sup>3</sup> (86,000m <sup>3</sup> )	76,500m <sup>3</sup> (87,500m <sup>3</sup> )
水源	-	豊川用水	豊川用水	豊川用水
給水開始	-	昭和45年4月 <sup>※1</sup>	昭和45年4月 <sup>※2</sup>	昭和53年7月

※「日最大給水量」は令和元年4月現在の施設能力、( )は計画

※1 東三河水道用水供給事業継承後。継承前は昭和5年豊橋市により給水

※2 東三河水道用水供給事業継承後。継承前は昭和43年豊川市により給水



# 豊川用水による通水効果【工業】

豊川水系から取水した水を豊川用水の管路で浄水場へ送り、浄水場では、豊川水系の原水を沈殿処理し、各地域の工場へ送っている。

供給量 : 約15.5百万m<sup>3</sup>(R4)  
 豊川用水依存率 : 約43%(R2 工水供給地域)  
 給水先 : 80事業所(R4)  
 製造品出荷額※ : 約5.7兆円(R4 工水供給地域)  
 ※工場等が製造した製品を出荷した金額



※愛知県HPより引用(一部追記)

区分	全体計画	蒲郡浄水場	豊橋南部浄水場	梅田浄水場
給水区域	5市	蒲郡市、豊川市、豊橋市(一部) (3市)	豊橋市、田原市 (2市)	湖西市 (1市)
日最大給水量	148,690m <sup>3</sup> (185,690m <sup>3</sup> )	44,000m <sup>3</sup> (44,000m <sup>3</sup> )	74,000m <sup>3</sup> (111,000m <sup>3</sup> )	30,690m <sup>3</sup> (30,690m <sup>3</sup> )
水源	-	豊川用水	豊川用水	豊川用水
給水開始	-	昭和45年3月	昭和53年7月	昭和43年11月

※「日最大給水量」は令和元年4月現在の施設能力、( )は計画

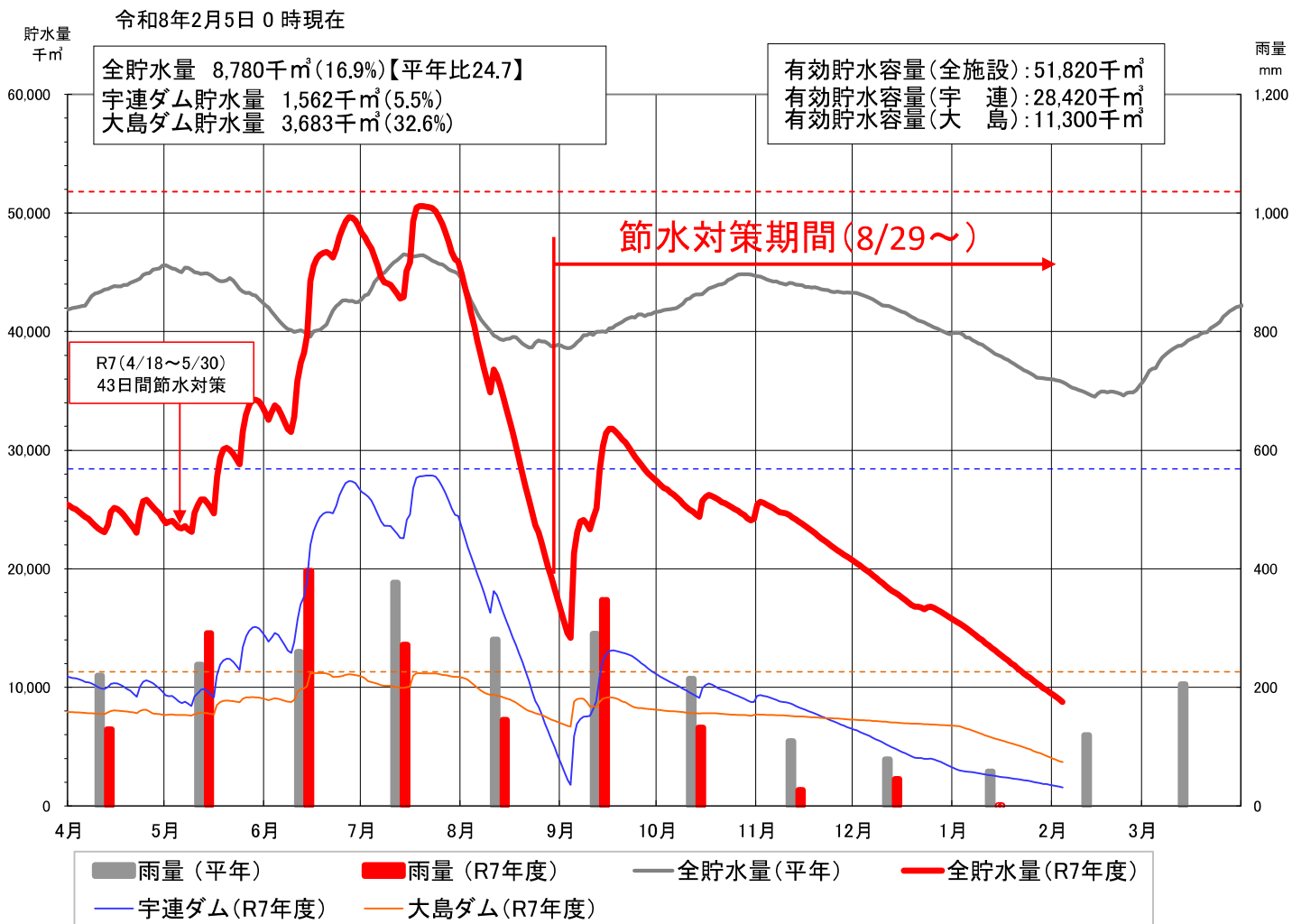


## ○主な受水企業

トヨタ自動車(株)、伊藤ハム(株)、花王(株)、  
 (株)デンソー、アイシンAW(株)....

# 渇水の状況

# 渇水の状況 宇連ダム・大島ダム・地区内調整池



## 節水率の経過

開始日時	農水	上水	工水
R7.8.29(金) 9:00~	5%	5%	5%
R7.12.25(木) 9:00~	10%	10%	10%
R8.1.15(木) 9:00~	20%	15%	20%
R8.1.28(水) 9:00~	30%	17%	30%

	月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
宇連ダム地点降水量	平年値	215mm	248mm	280mm	360mm	301mm	286mm	213mm	108mm	70mm	58mm	108mm	199mm
	令和7年度	129mm	291mm	396mm	272mm	145mm	349mm	132mm	27mm	45mm	1mm	0mm	
	平年比	60%	117%	141%	76%	48%	122%	62%	25%	64%	2%	0%	

※平年値は平成14年以降の値を使用しています。

# 渇水の発生

管理開始以降、毎年のように大小の節水対策を実施していたが、豊川総合用水事業完了後は、水源を増強したことにより渇水は減ってきていた。

令和7年4月の渇水は令和元年以来、冬渇水については、平成18年以来である。



過去の渇水（令和元年）

西暦	年度	和暦	最大節水率 (%)			節水日数	冬渇水年
			農水	上水	工水		
1973	S48	48	50	10	20	25	
1974	S49	49	-	-	-	-	
1975	S50	50	-	-	-	-	
1976	S51	51	-	-	-	-	
1977	S52	52	30	10	10	204	●
1978	S53	53	40	15	15	316	●
1979	S54	54	40	15	15	366	●
1980	S55	55	10	-	-	365	●
1981	S56	56	40	10	10	161	●
1982	S57	57	40	15	20	22	
1983	S58	58	40	15	20	76	
1984	S59	59	44	22	27	256	●
1985	S60	60	40	15	20	39	●
1986	S61	61	44	10	15	152	
1987	S62	62	48	24	31	221	●
1988	S63	63	30	10	15	54	●
1989	H1	91	20	5	10	9	
1990	H2	92	20	5	10	42	
1991	H3	93	30	10	15	27	
1992	H4	94	30	10	15	72	
1993	H5	95	20	10	15	65	
1994	H6	96	60	35	60	181	
1995	H7	97	50	30	50	258	●
1996	H8	98	45	25	45	187	●
1997	H9	99	10	5	10	130	
1998	H10	100	10	5	10	10	
1999	H11	101	-	-	-	-	
2000	H12	102	15	10	15	28	
2001	H13	103	43	27	43	119	
2002	H14	104	40	25	40	54	
2003	H15	105	-	-	-	-	
2004	H16	106	-	-	-	-	
2005	H17	107	30	20	30	109	●
2006	H18	108	-	-	-	-	
2007	H19	109	-	-	-	-	
2008	H20	110	-	-	-	-	
2009	H21	111	-	-	-	-	
2010	H22	112	-	-	-	-	
2011	H23	113	-	-	-	-	
2012	H24	114	5	5	5	-	
2013	H25	115	40	28	40	54	
2014	H26	116	5	5	5	10	
2015	H27	117	-	-	-	-	
2016	H28	118	-	-	-	7	
2017	H29	119	-	-	-	-	
2018	H30	120	-	-	-	-	
2019	R1	121	15	15	15	68	
2020	R2	122	-	-	-	-	
2021	R3	123	-	-	-	-	
2022	R4	124	-	-	-	-	
2023	R5	125	-	-	-	-	
2024	R6	126	-	-	-	-	
2025	R7	127	30	17	30	199	●

豊川総合用水  
事業完成

※2026 (R8) は、1月末時点  
※冬渇水とは12月から2月の間の渇水とする。

## 記者発表資料



令和8年1月27日  
独立行政法人水資源機構  
豊川用水総合管理所

### 豊川用水の節水対策強化について

豊川流域では、令和7年7月から令和8年1月にかけて流域で降水量が少ない状態が続いており、河川の流量が減少しています。

独立行政法人水資源機構が管理する豊川用水水源（宇連ダム、大島ダム、地区内調整池）からは都市用水、農業用水の必要量を補給し続けており、貯水量が減少傾向にあります。

このため、豊川用水では8月29日から節水対策を実施しておりますが、1月27日0時の総貯水量は10,546千 $m^3$ 、20.4%と減少しており、今後、まとまった降雨がなければ、河川流況の改善がなされず、更に厳しい状況となることが予想されるため、昨日（1月26日）開催した独立行政法人水資源機構と豊川用水関係利水者で組織する豊川用水節水対策協議会で、豊川用水の節水対策の強化について、次のとおり決定しました。

#### 豊川用水第4回節水対策

- ① 節水開始日時：令和8年1月28日（水）午前9時から
- ② 節水率：農業用水30%、水道用水17%、工業用水30%
- ③ 節水対象者：愛知県企業庁、静岡県企業局、豊川総合用水土地改良区、牟呂用水土地改良区、松原用水土地改良区、湖西用水土地改良区



豊橋駅構内のデジタルサイネージ



水機構独自や豊橋市と連携したXの配信



豊橋市報での節水啓発



地元FM局 生放送での節水の呼びかけ<sup>17</sup>